

# 現地人材を活かした道徳教材の開発

— 剪定師 오 상열さんに学ぶ —

前ソウル日本人学校 教諭

北海道旭川市立神居東小学校 教諭 川村 貴弘

キーワード：教材開発，現地採用職員，職人，自作資料

## 1. はじめに

日本と韓国のかかわりは古く、今まで歴史的にも密接な関係を築いてきている。また、今年は日韓併合から100年という節目の年を迎えた。竹島問題や教科書問題など政治的な問題もあり、近代における日韓関係から「近くて遠い国」と呼ばれることの多かった韓国であるが、2005年の「日韓友情年」以降始まった「日韓交流おまつり」が毎年行われるなど、2国間の距離は市民レベルで着実に近くなっている。

ソウル日本人学校は、1972年に開校し本年で38年を迎えた。平成22年4月現在、幼稚部、小学部、中学部の3学部で385名の子ども達が学んでおり、職員は派遣教員20名、国際交流ディレクター1名と現地採用職員25名で計46名からなる学校である。今年度は現校舎の老朽化に伴い、ソウル日本人学校は新校舎への移転の年を迎えることとなった。日韓併合から100年の今年は、ソウル日本人学校にとっても1980年以降30年間にわたり使用してきた自然環境に恵まれた現校舎と別れを告げる節目の年である。

ソウル日本人学校は、「たくましく、心豊かに世界に生きる人」を教育目標として各学部で教育活動を展開している。平成21年度は、子ども達の人格の形成に向けた取り組みを研究の柱として「自己を見つめ、よりよい生き方を追究しようとする子どもの育成」をテーマに研究を行った。このテーマへのアプローチとして、環境問題、国際理解、食の問題、さらには自らの生き方を問おうとする生き方教育といった問題を取り上げ、園児・児童・生徒の実態に依拠して、よりよく生きることの意味について考えさせようとした。ここではこの研究に向けて行った教育実践として、現地採用職員を題材とした道徳教材の開発（自作紙芝居の作成過程と授業の実際）についてその実践を紹介する。

## 2. 実践の内容について

### (1) 教材開発から紙芝居作成にあたって

教材開発は、豊かな今の時代の象徴なのか「物を大切にできない」「落とし物がなかなかへらない」という学級の児童の実態を改善するために行った。2年生という発達段階の児童に対して、物を大切にすることをどうもたせるかが悩みの種であった。

その悩みを解消してくれたのが、47年間にわたり剪定職人として働いてきた環境整備を担当する現地採用職員の오 상열（オ・サンヨル）さんであった。彼は、四季にわたり木々の剪定を行い、春には自分の家で育ててきた花の苗を植え、児童のみならず我々職員の間にも常に楽しませてくれる存在であった。年に50回程度、学校に赴き淡々と仕事をこなしていく姿に強く惹かれ、道徳授業の中で使用する紙芝居の主人公になって欲しいと依頼した。現地人材を題材として教材開発するために壁になるのが、本人とのコミュニケーションであるが、この問題につ



紙芝居「おじさんのしごと」より

みなさんは、グラウンドの片隅にこんな風景を見たことがありますか？この方は、みんなが通うソウル日本人学校の周りにある木や植物のお世話をしてくれるおじさんです。名前はオ・サンヨルさん。お年は73歳。ソウル日本人学校へ来られてからは、8年ですが、この仕事を47年も続けられている方です。

いても現地採用職員の協力を得て難なく解消することができた。

年間50日に渡り常に木々や植物の手入れをしている彼は、その日の仕事内容について、その都度、事細かにメモを取り、無駄なくかつ計画的に校地内の環境整備を行っていた。自分の仕事に誇りをもち、その姿はまさに職人そのものであった。そして一番驚いたのが道具への強い思いであり、いい道具（刃物に関しては、韓国製よりも日本製は切れ味がよいそうである）を選んで購入し、毎日の手入れを怠ることなく、最後まで大切に使い続けるというその職人の姿は、韓国という地においても日本に通ずるものがあり、持ち物を大切にすることを育てるためのイメージとして最高の人物であった。

彼の道具に対する思いと姿勢を2年生の児童にもわかるように、紙芝居という形で教材化を図った。紙芝居のストーリーでは、剪定師오상열さんをおじさんという言葉で統一し、子ども達にとって親しみがもてるように配慮した。おじさんの代表的な仕事を取り上げ、その仕事の裏側には、いつもはさみが存在していることを意識づけられるようにした。その結果、ほとんどの児童が大切な道具の存在に気付くことができた。

## (2) 自作資料について 資料名 紙芝居「おじさんのしごと」

本資料は、ソウル日本人学校の校内の木々の剪定士としてたくさんのお仕事をこなす、この道47年の오상열さんという韓国人の現地採用職員へのインタビューをもとに作成した自作資料である。春から秋にかけて、校内にあるたくさんのお木々や植物の手入れを行う姿を紙芝居の中で再現した。児童が紙芝居を見聞きする中で、おじさんの仕事を知りその仕事に欠かすことのできないものが、いつも身につけているはさみであるとわかるようにストーリーを工夫した。

## (3) 教材について

本教材は、道徳科の内容項目1-(1)に関わり、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする」をねらいとした。特に「物を大切にすること」に焦点を当てている。児童一人一人が、自分の持ち物について、再度考える機会として本教材をとらえた。低学年という発達段階では、今の自分の行為を自らの力で改善していくことは難しいが、親や教師の言葉かけや助言を通して、児童の心に、行動に変容をもたらすことは可能であると考えた。物を大切にすることが、児童がよりよい生活をめざす上で重要な要素であることは言うまでもない。登場人物のおじさんは、児童が普段何気なく目にしている人であり、大きく心が動かされることが十分に期待された。

## (4) 指導観

この教材は、「節度ある生活態度」という道徳的価値の中から、特に物を大切にすることを育むことをねらいとしている。児童が今までの自分をふり返り、道徳の時間を通じて一人ひとり高まることを期待している。そのために児童の「内面的な自覚」を適切にとらえることが必要であると考えた。本時で求めたい内面的な自覚は、以下のようないふこである。

- 物を落としたことがあったな。
- 道具ってすごいな。
- 自分はおじさんみたいに道具を大切にしていたかな。
- 自分の勉強道具を大切にできたらいいな。
- 自分にもできそうなことがあるよ。
- 自分が買い物をするときによく考えて買うようにしよう。



上記のような心の変化を持たせるために、意図的に自分のことについてふり返る場面、仲間と考える場面を学習活動に取り入れた。おじさんからのメッセージも加え、「これからの自分」を一人ひとりが考えられるようにした。

①本時の目標

すばらしい仕事を行っているおじさんの姿を通して、これから自分がかんばることを考えることができる。

②本時の展開

児童の学習活動・予想される反応	指導上の留意点	評価とその留意
<p>1. 自分たちの生活を振り返り、今使っている道具を発表する。</p> <p>・鉛筆/消しゴム/定規/筆/ノート/教科書など</p> <p>2. 紙芝居「おじさんのしごと」を聞く。(前に集合する)</p>	<p>・勉強道具など、学校生活に限らず自分たちが使っている道具(物)を想起させる。</p> <p>・自由に発言できる雰囲気大切に</p> <p>・紙芝居「おじさんのしごと」を読む。</p> <p>・最低限の補足を加えながら読み進めることで、おじさんの仕事に対する理解を深める。</p> <p>・今日、学習することについて確認をする。</p>	<p>・用紙を配布する。</p> <p>・自分の生活をふり返ることができたか。</p> <p>・紙芝居を通して、おじさんの存在や仕事に興味・関心をもつことができたか。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分の道具を大切に使う</div>		
<p>3. 紙芝居からおじさんのしごとについて理解する。</p> <p>・ケナリの枝を切っている。</p> <p>・切った葉っぱの掃除をしている。</p> <p>・花を植えている。</p> <p>・草を枯らしている。など</p>	<p>・場面を追って、おじさんの仕事をふり返る。</p> <p>・児童の学習活動と紙芝居の内容を関連づけさせながら話を思い出させる。</p> <p>・身近なところでいつも仕事をしていたおじさんに親近感を持たせる</p>	<p>・今日学ぶ、価値について考えることができたか。</p> <p>・仕事について、発表することができたか。</p>
<p>4. おじさんが大切にしている道具を知る。</p> <div data-bbox="323 1563 416 1603" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 10px auto;">はさみ</div> <p>・大切な物。</p> <p>・なくてはならない物。</p> <p>・仕事の道具。など</p>	<p>・おじさんの仕事で一番よく使われる物を確認させる。</p> <p>・おじさんにとって、はさみはどんなものであるかを考えさせる。</p>	<p>・各場面(1～7)で使われていた道具に気付くことができたか。</p>
<p>5. 毎日の手入れについて知る。</p> <p>・はさみをみがいている。</p> <p>・はさみを研いでいる。</p> <p>・歯を削っている。など</p>	<p>・7の場面を取り上げ、一連の仕事が「シャーッ・シャーッ・シャーッ」という作業とどう関係しているかを考えさせる。</p>	<p>・おじさんにとってのはさみの存在をえることができたか。</p> <p>・7の場面でおじさんが何をしているか考えることができたか?</p>

<p>6. グループごとに役割を決め、おじさん・はさみ・研ぎ石の気持ちを考える。</p> <p>7. グループごとに発表をする。</p> <p>・「これからの自分」について考える。</p> <p>・これからの自分を発表する。</p>	<p>・7の場面でおじさんが何をつぶやいていたのか考えさせる。</p> <p>・役割演技を行わせる。 (時間を見ながら活動させる)</p> <p>・おじさんの仕事とはさみの関係についてまとめる。</p> <p>・おじさんからのビデオレターを見て、今後の実践意欲を高める。</p> <p>※プラス思考になるように、一つ一つの発言を大切にします。</p>	<p>・グループの仲間とそれぞれの気持ちを考えることができたか。</p> <p>・役になりきって演技することができたか。</p> <p>・これからの自分について考え、書くことができたか。</p>
--	---	---

### 3. おわりに

ソウル日本人学校で行った教育実践を紹介してきたが、この実践を通して人としてよりよく生きていくために人が大切にしていく事柄に国境はないことを改めて感じる事ができた。今回、紙芝居のおじさんとして惜しみなく協力をしてくれたオサム先生には感謝の気持ちでいっぱいである。この実践を通じて、児童にも以下のような心の変容を見ることができた。



紙芝居を聞く児童の様子

#### 「これからの自分」より

- ・これからは物を大切にします。自分のものは、ちゃんと名前を書いておかないとだめだからなるべくなくさないようにします。おじさんみたいに大切にします。
- ・物を大切にすれば、物もその気持ちに答えてくれるんだなと思いました。
- ・ぼくもものを壊れるまで使いこなしたいです。
- ・私は、いつもお買い物をするとき、今必要のない物を買うことが多かったと思います。今度からは買い物をするときは、今はそれが必要であるかを考えて買います。
- ・おじさんがはさみをいつも丁寧に石で磨いているのを知りました。あんなに大切にしているんだね、私もおじさんみたいに物を大切にしたいなと思いました。
- ・はさみとかえんぴつとかなどを大切に使わなければいけないと思いました。

3年間の派遣で海外において、日本と同等の教育施設において、日本人を日本人として育てていくために大切な人としての生き方を韓国人である現地採用職員からも学べたことは私にとっても大変貴重な財産となった。世界の在外教育施設には、派遣教員以外にも多くの現地スタッフが存在し、日々の教育活動に貢献している。それぞれのポジションの良さを活かし、共に歩み寄ることで教育活動の可能性はさらに広がることを確信することができた。